

第3回福島県理学療法士会管理者研修会開催

今年で3回目を迎える福島県理学療法士会管理職研修会が、ふくしま医療機器開発支援センターにて平成29年6月に開催されました。24日は「質の高いリハビリテーション部門管理」をテーマに45名の参加、25日は「質の高いリハビリテーション部門教育」で50名の参加がありました。講師には村永信吾氏、高野稔氏、本田知久氏をお迎えし、その理論や現場での取り組みを講演していただき、参加者のグループワークもたいへん盛り上がる研修となりました。各講義の主な内容は以下の通りです。

【村永氏】組織のブランディングのため、質の高いリハビリテーションを提供する必要がある。質を高めるためには、いかに数値化し継続的に改善できるかが大切であるといった内容。①問題をみつける：(妥当性：ズレ)(信頼性：ブレ)②問題をうめる：ブレへの対応と学習③現状をこえる：ズレへの対応と学習④人を動かす：コミュニケーションによる組織の成長と統制。知(ナレッジ)育成とSECIモデル(共同化・表出化・連結化・内面化)。

【高野氏】学生が実習する際の支援ツール(ローカルルール・体験チェックリスト・段階的行動目標シート等)で指導の負担を減らし、指導者間の差を減らす。学生をチームの一員として患者情報を共有し問題解決を共に行う仲間とする。症例報告会ではなく、症例検討会で明日からの実習に活かせるフィードバックを行う。

【本田氏】有益な会議づくりのため①シミュレーション②ルール役割③終了条件④時間配分⑤拡散⑥収束⑦可視化⑧決定事項の確認のノウハウと、社会人基礎力の12の力をチェックしながらその育て方①役割を達成させ、行動を承認する②問題解決プロセスを体験③グループ活動で教え、学ぶ④振り返り・気づき・教訓を引き出す。

参加者アンケートにて「ペア・グループワークをすることで自分の考えをまとめる機会となり、学習の定着になった」「内容・プレゼン方法も含め勉強になりました」「管理や運営に関する仕組みを勉強する機会というのが職場でもなかなかないため、こういった研修を企画していただけて非常に勉強になります。」「実際に職場に戻って取り組める内容も多いため、アウトプットして取り組むことができます。」と大好評でした。来年以降も福島県士会では管理職研修会を開催していきますので、奮ってご参加ください。きっと組織と個人を成長させるヒントを掴むことができると確信しております。

福島県理学療法士会理事 本田知久 会報誌編集委員長 折内英則



熱心に意見交換を行った参加者ら